社会課題を、超えていく。
UR都市機構

東北の復興まちづくりに
全力で取り組んでいます

令和８（2026）年８月 28 日
独立行政法人 都市再生機構

「ＵＲ都市機構フォトコンテスト 2026」結果発表

応募作品 846 点から受賞作品 24 点

独立行政法人都市再生機構（以下、ＵＲ都市機構）は、「くらしがある、笑顔がある。」をテーマに、「ＵＲ都市機構フォトコンテスト 2026」を開催しました。

復興部門は東日本大震災からの復興支援の一環として東北の「今」を伝える写真を、団地部門は日本全国のＵＲ賃貸住宅に住まう人々の「今」を伝える写真を、フォーム、メール、郵送、Instagram で募集し、全国から 846 点（復興 257 点、団地 589 点）に及ぶ応募をいただきました。その中から、審査員およびＵＲ都市機構役職員の審査により、今般、復興、団地各部門大賞１作品のほか、優秀賞３作品と入賞８作品（キッズ・ジュニア賞を含む）を決定しましたので発表します（詳細は別紙）。

【大賞受賞作品】

復興部門　大賞 『鮑漁』 （宮城県気仙沼市） 昆野 三津男 さん	団地部門　大賞 『いつものブレイクタイム』 プラザシティ相模大野（神奈川県相模原市） 平林 友理子 さん

＜作品メッセージ＞ 浜の漁師さん達のドル箱アワビ漁です。震災復船が流されたり破損などして出漁出来なかった日々が続きよくここまで復旧復興したものだと感じます。アワビの収穫は震災以前より少なく家族も失ったけど、それでも俺達は海が好きなんだと言う漁師達の生きざまに感動した。 ＜審査員講評＞ 「漁師が鮑漁を再開し、海と対峙している舟の様子を、海の臨場感ある風景として切り取っている意欲作。20 隻以上の舟が集まり、さまざまな方向に向かって海中を覗き込んで鮑と格闘している漁師たちの熱心な様子が伝わってくる。復興の象徴として漁業が回復した海の風景を画角におさめており、審査会で高く評価された。（西田司）」	＜作品メッセージ＞ 団地の中で遊ぶ子どもたちにとって、この場所はいつも一息つくときの特等席。暑い日差しを避けて冷たいリンゴジュースをぐびぐび飲む二人の背中を捉えました。こんなふうに団地の中で何気なく過ごす時間は、私にとってはかけがえのない幸せな時間です。 ＜審査員講評＞ 「耐え難い暑さが公園であそぶ子供を阻む中で、素敵なひとときをとらえた写真。コメントには、「特等席」と「ぐびぐび飲む」という表現もあり、一層、このかわいい屋根付きベンチで過ごす子供の得意げな笑顔を想像させる。こんな小さな影のある空間があるだけで、熱い公園に子供が戻る。これからの公園に必須の空間になりそうだ。（池邊このみ）」

その他受賞作品の詳細はＵＲ都市機構ホームページまたは Instagram 公式アカウントをご確認ください。

https://www.ur-net.go.jp/aboutus/action/photocontest/2026/result/index.html

https://www.instagram.com/ur_toshikiko

【お問い合わせ先】
ＵＲ都市機構　本社　広報室　報道担当　　（電話）０４５－６５０－０８８７

ＵＲ都市機構の歩みは戦後の住宅不足解消に端を発しています。1955 年から様々なステークホルダーとともに、時代時代の多様性に即し、安全・安心・快適なまちづくり・くらしづくりを通して、「人が輝く“まち”」の実現に貢献してまいりました。そしてこれからも、変化する社会課題に挑戦し続けることで皆さまにお応えし、「人が輝く“まち”」づくりに不可欠な存在でありたいと考えております。これまで培ってきた持続可能なまちづくりのノウハウをいかし、都市再生事業・賃貸住宅事業・災害対応支援・海外展開支援に全力で取り組んでまいります。

https://www.ur-net.go.jp/

社会課題を、超えていく。 UR都市機構 SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

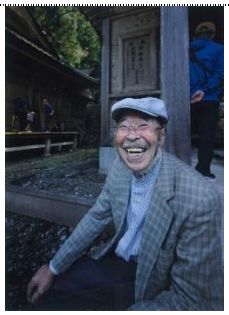
UR都市機構は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

別　紙

「ＵＲ都市機構フォトコンテスト 2026」概要

<table>
<tr><td>名称</td><td colspan="3">ＵＲ都市機構フォトコンテスト 2026</td></tr>
<tr><td>主催</td><td>独立行政法人都市再生機構（ＵＲ都市機構）</td><td>後援</td><td>国土交通省、復興庁</td></tr>
<tr><td>作品募集期間</td><td>令和８年３月 13 日～令和８年５月 31 日</td><td>応募作品数</td><td>846 点（復興 257 点　団地 589 点）</td></tr>
<tr><td>作品
イメージ</td><td colspan="3">（復興部門）・東北の復興を感じる場面　・東北での生活がうかがえる場面
（団地部門）・四季折々のＵＲ賃貸住宅の風景　・ＵＲ賃貸住宅と周辺環境が形づくる風景
・ＵＲ賃貸住宅に生活する人々の息づかいが感じられる場面</td></tr>
<tr><td>審査員
（敬称略）</td><td colspan="3">池邊　このみ（ランドスケーププランナー）／大西　みつぐ（写真家）
／西田　司（建築家）／春木悦代（写真家・インフルエンサー）　※敬称略</td></tr>
<tr><td>選定方法</td><td colspan="3">審査員及びＵＲ都市機構職員等による審査により決定</td></tr>
<tr><td rowspan="6">受賞作品</td><td colspan="3">≪大賞≫　２点（各部門１点）</td></tr>
<tr><td>＜復興部門＞

『鮑漁』（昆野三津男さん）
宮城県気仙沼市</td><td colspan="2">＜団地部門＞

『いつものブレイクタイム』（平林友里子さん）
プラザシティ相模大野（神奈川県相模原市）</td></tr>
<tr><td colspan="3">≪優秀賞≫　６点（各部門３点）</td></tr>
<tr><td colspan="3">＜復興部門＞</td></tr>
<tr><td>
『祭りの再開に燃えて』
福島県いわき市</td><td> 
『愉快な棟梁さん』
岩手県遠野市</td><td>
『伝統の地、大堀』
福島県双葉郡浪江町</td></tr>
<tr><td colspan="3">＜団地部門＞</td></tr>
<tr><td>
『浮かれ楽しい引っ越し』
八王子みなみ野シティ
ヴェルディールみなみ野西
（東京都八王子市）</td><td>
『おはな あったのよお～♫』
新川・島屋敷通り
（東京都三鷹市）</td><td>
『春のキャンバス、喜びの落書き』
コンフォール南日吉
（神奈川県横浜市）</td></tr>
<tr><td colspan="3">その他、入賞（キッズ・ジュニア賞を含む 16 点）を選定</td></tr>
<tr><td>ホームページ</td><td colspan="3">https://www.ur-net.go.jp/aboutus/action/photocontest/2026</td></tr>
</table>